

アメリカの心理学者キャロル・S・ドゥエック氏は、人の心の持ち方には大きく2つのタイプがあると伝えています。

ひとつは、「人の能力は生まれつき決まっていて変えられない」と考える“硬直マインドセット”。

もうひとつは、「努力次第で能力は伸びる」と信じる“しなやかマインドセット”です。

この考え方の違いは、子どもたちの「挑戦する気持ち」に大きな影響を与えます。ドゥエック氏の研究では、「すごいね、頭がいいね」と“能力”をほめられた子どもたちは、その後、難しい課題に挑戦するのを避けるようになっていったのに対して、「よくがんばったね」と“努力”をほめられた子どもたちは、むしろ進んで難しいことに取り組むようになっていったのだそうです。

つまり、「結果」や「能力」だけをほめると、子どもは失敗を恐れるようになり、だんだんと新しいことに挑戦しなくなってしまうのです。

一方で、「がんばったね」「工夫してたね」「よくあきらめなかったね」と努力の過程を認められると、子どもは挑戦すること自体を楽しめるようになり、自分を信じて前へ進めるようになるのです。

今、園ではけん玉やコマに夢中で取り組む姿が多く見られます。なかなか乗らなかったり、回らなかったりして「できない…」と悔しそうな顔を見せることもあります。でも、そうした姿こそが、子どもたちが成長している証です。

大人にできることは、結果だけをほめるのではなく、がんばっているプロセスを見つけて、しっかりと言葉で伝えてあげることです。

「失敗しても、また挑戦してるのすごいね」

「どうやったらうまくいくか、自分で考えてるね」

「くやしかったけど、あきらめずにがんばってるね」

そうした声かけが、子どもたちの「やってみよう」、「もっとがんばってみよう」という意欲を育てていくのだと思います。少しずつできるようになったときの小さな成功体験、達成したときのうれしい気持ちなどが積み重なって、努力を継続する力の源にもなっていくのだと思います。

早くから何かを習わせたり、成績を気にしたりする風潮もありますが、本当に大切なのは子どもの内側から生まれてくる「意欲」や「ねばり強さ」、「挑戦する気持ち」です。(非認知能力とも呼ばれています) こうしたものは、今、この時期に、思いっきり遊び、夢中になって挑戦する中でこそ育つ力です。

「うまくいなくても、がんばることって楽しい」

そんな経験をたくさん重ねて、しなやかに困難を乗り越えていける子に育ってほしいですね。